

日清オイリオグループの価値創造ストーリー

1 成長の軌跡

日清オイリオグループは、1907年の創立以来110余年にわたり、食生活の変遷に合わせて、人々の食卓においしさと健康をお届けしてきました。「油脂を究める」ことで多様な価値の共創に挑み続け、さらなる市場の拡大を目指しています。

1907年～1924年

創業

1907年、大倉喜八郎、松下久治郎が「日清豆粕製造(株)」を創立。社名は、日本の「日」と清国(現在の中国)の「清」に由来します。1924年、日本初のサラダ油「日清サラダ油」を発売しました。

1907年 「日清豆粕製造(株)」創立

1924年 日本初のサラダ油「日清サラダ油」を発売

1925年～1959年

サラダ油のある食文化を創出

ガス・電気・水道が家屋に普及し、生活の近代化が進んだことにより食文化には洋食化の波が訪れ、一般家庭でもサラダ油が使われるようになりました。当社は、ドレッシングやマヨネーズの作り方の実演販売を通して家庭でのサラダ油の使い方の普及に努めました。

1951年 食用油ギフトセット発売

1960年～1979年

主力商品の成長・新事業参入

食の多様化とともに、「日清サラダ油」は品質改善や技術革新、新容器採用などにより、サラダ油のトップブランドとして成長しました。

1963年 横浜磯子工場の操業開始

1970年 中鎖脂肪酸のグリセリンエステル「O.D.O」発売

1973年 ファインケミカル事業に本格参入

1980年～1999年

新製品・新事業展開

健康志向、グルメ志向、高級志向といったさまざまなニーズに応えるとともに、使いやすさを重視した新商品を数々発売しました。

1980年 純植物性マヨネーズタイプ調味料「日清マヨドレ」発売

1992年 「日清キャノーラ油」発売

1996年 日本初のオリジナルブランド・オリーブオイル「BOSCOオリーブオイル」を発売

2000年～2009年

新会社誕生

2002年、日清オイリオグループが誕生。特定保健用食品など機能を付加した商品展開に加え、商品の特性を活かした使い方などの情報を提供し、食生活への貢献を推進しました。

2002年
日清製油(株)、リノール油脂(株)、
ニッコー製油(株)が経営統合、
日清オイリオグループが誕生

2003年 特定保健用食品
「ヘルシーリセット」発売

2005年 ISF(マレーシア)に資本参加

2009年 大東カカオ(株)に資本参加

2010年～

多様な価値共創への挑戦

健康性、自然志向、簡便性など食へのニーズの多様化に応え、商品ラインアップを拡充しました。また、アジア、欧州を中心に拠点を設立するなど海外への積極展開を進めています。

2011年 IQL(スペイン)に資本参加

2012年 「エネプリン」発売

2015年 「日清アマニ油」
「日清ヘルシーオフ」発売

2021年 機能性表示食品
「日清MCTオイルHC」発売

2021年 「日清やみつきオイル」発売

2023年 紙パックタイプ発売

2024年、
日清サラダ油は
発売100周年を
迎えました



油脂を究め、さまざまな付加価値を生み出してきました

提供価値
(共有価値)

サラダ油のある食文化を創出

健康やグルメなどさまざまな志向に応える
新たな食用油市場の創出

機能を付加した
商品提供をはじめ、
新たな食生活を提案

健康性・簡便性等、食の志向の
多様化するニーズに応える
新たな市場の創出

精製技術



1924年
「日清サラダ油」発売



1951年
食用油ギフトセット発売

エステル合成技術



1970年
「O.D.O」発売

乳化技術



1980年
「日清マヨドレ」発売

風味設計技術



1996年
「BOSCOオリーブオイル」発売

酵素エステル交換技術、
栄養評価技術



2003年
「ヘルシーリセット」発売

栄養評価技術

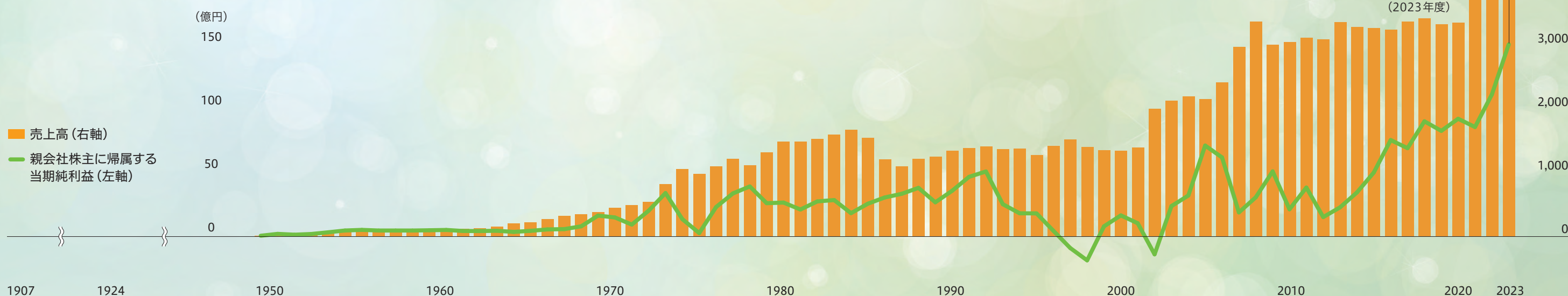


2021年
機能性表示食品
「日清MCTオイルHC」発売

製造技術
(ウルトラ酸化バリア製法)



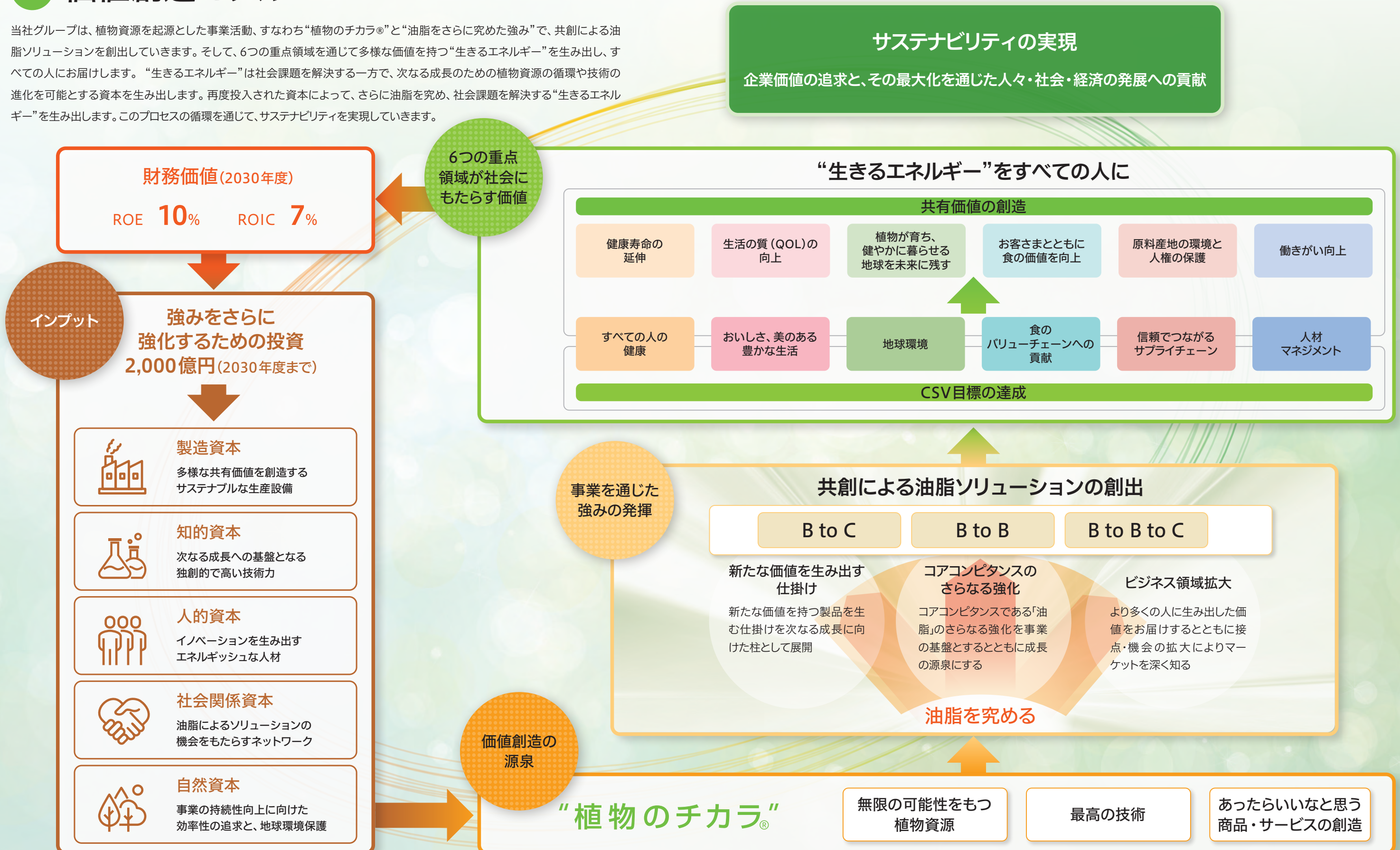
2024年
「日清ヘルシークリア」
発売



日清オイリオグループの価値創造ストーリー

2 価値創造モデル

当社グループは、植物資源を起源とした事業活動、すなわち“植物のチカラ®”と“油脂をさらに究めた強み”で、共創による油脂ソリューションを創出していきます。そして、6つの重点領域を通じて多様な価値を持つ“生きるエネルギー”を生み出し、すべての人にお届けします。“生きるエネルギー”は社会課題を解決する一方で、次なる成長のための植物資源の循環や技術の進化を可能とする資本を生み出します。再度投入された資本によって、さらに油脂を究め、社会課題を解決する“生きるエネルギー”を生み出します。このプロセスの循環を通じて、サステナビリティを実現していきます。



日清オイリオグループの価値創造ストーリー

3 インプット

日清オイリオグループのコアコンピタンスは「油脂」。「グローバルトップレベルの油脂ソリューション企業」に向け、長年積み重ねてきた資本をさらに強化するために、積極的な投資を進めています。

現在の姿

「Value Up +」期間中に実施の投資※1

投資の事例



製造資本

多様な共有価値を創造する
サステナブルな生産設備

- 8か国21社の拠点を構築
- 効率的な機器の継続的な導入や運転管理技術により安定的・効率的な操業を実現

設備投資

2013年度
73億円

2023年度
191億円

生産能力の拡充
236億円

デジタル投資
55億円

更新投資
222億円

- チョコレート用油脂生産能力増強など

- 名古屋工場のスマートファクトリー化

<製造資本>

食用油の長持ち機能を向上させるための製法などには、高度な精製技術が必要とします。この精製技術を強化するため、生産拠点への次世代型精製設備の導入を進めています。先行的に、横浜磯子工場と水島工場へ最新式の脱臭設備の導入を進め、2027年の稼働を予定しています。この設備では多様な精製条件を設定することが可能となるため、従来製法の改良による商品の差別化や、油脂の提供領域の飛躍的な拡大を目指していきます。また、CO₂排出量削減にもつながるため、環境負荷低減に貢献していきます。



知的資本

次なる成長への基盤となる
独創的で高い技術力

- 油脂に関する長年の基礎研究によって積み重ねてきた知見と、お客さまのニーズや市場に合わせた商品開発のノウハウ
- 自社の技術とブランドを活用するための戦略的な知的財産戦略

保有特許件数

2013年度
約290件

2023年度
約690件

共創への仕掛け
74億円

- 横浜磯子事業場におけるインキュベーション機能の強化・実装
- 機能性素材マーケティング



人的資本

イノベーションを生み出す
エネルギーな人材

- 生産、品質、お客さまへの対応などすべてにおけるきめ細やかで真摯な姿勢と、チームワークを大切にする社風
- 「教育最優先」の方針に基づく充実した教育・研修制度

1人当たり営業利益

2013年度
1.9
百万円/人

2023年度
6.5
百万円/人

積極的な
人材投資
24億円※2

- 高度専門人材のキャリア採用強化
- 人材開発投資拡充（専門性強化、リスクリング）
- 競争力ある報酬水準の実現に向けた制度設計
- 働きがい・働きやすさを高める環境整備

<人的資本>

デジタル技術を活用したビジネスモデルの変革や革新的な業務改革の推進を目指し、従業員のデジタル知識・スキルの向上とデジタル活用推進につながるマインドを醸成するため、全社員（単体）を対象とした教育を実施しました。多様な学びのニーズに応じて、DXの基礎理解から発展的なデジタルスキル、分析スキル、思考力といった幅広いテーマの講座を用意し、約1年半の期間で20～30時間のe-ラーニング講座を受講することで、デジタルリテラシーの向上を図りました。今後、選抜型の専門教育も実施し、将来のデジタル活用推進の牽引役となる人材を育成していきます。



社会関係資本

油脂によるソリューションの
機会をもたらすネットワーク

- (国内)食卓から工場まで、多様な販売チャネルとのつながり
- (海外)加工油脂、ファインケミカルを中心に、グローバルネットワークを構築
- 持続可能な事業運営を可能とするサプライチェーンを構築

拠点設置国数

2013年度
5か国

2023年度
8か国

共創への
ネットワーク構築

- 価値共創のプラットフォーム・コンソーシアムなどへの参画

サプライチェーンの
持続可能性の
さらなる強化

- トレーサビリティの確保と人権デュー・ディリジェンスの実施



自然資本

事業の持続性向上に向けた
効率性の追求と地球環境保護

- 「調達基本方針」「パーム油調達方針」「大豆調達方針」「カカオ調達方針」を策定し、持続可能な調達を推進
- 効率的な機器の導入や運転管理技術の高度化により、継続的なCO₂排出量削減を実現

CO₂排出量原単位※3

2013年度
0.272
t-CO₂/t

2023年度
0.111
t-CO₂/t

環境投資
55億円

- 環境配慮型の生産設備の導入
- 堺工場を中心とした再生可能エネルギー設備の導入

<自然資本>

2030年の「HYDROGEN READY」を目指し、横浜磯子事業場では、水素をエネルギー源として活用することができると高効率ガスタービンコージェネレーション設備の設置工事を進めています。水素混焼を開始する際は、いかにして現実的な方法で水素を調達できるかがカギになるため、水素供給網の整備状況を注視しつつ、水素活用の実装に向けた設備導入を進めています。



※1 上記以外にM&Aを実施

※2 日清オイリオグループのみ。2022年～2024年の累計金額

※3 それぞれの年度の開示済み実績。2013年度は単体、2023年度は子会社を含めた5社を対象とする。

日清オイリオグループの価値創造ストーリー

4 当社グループの強み

当社グループの強みは「油脂を究める」ことです。強みを最大限に発揮することで新しい価値を創造し、グローバルトップレベルの油脂ソリューション企業への飛躍を遂げます。

グローバルトップレベルの油脂ソリューション企業へ

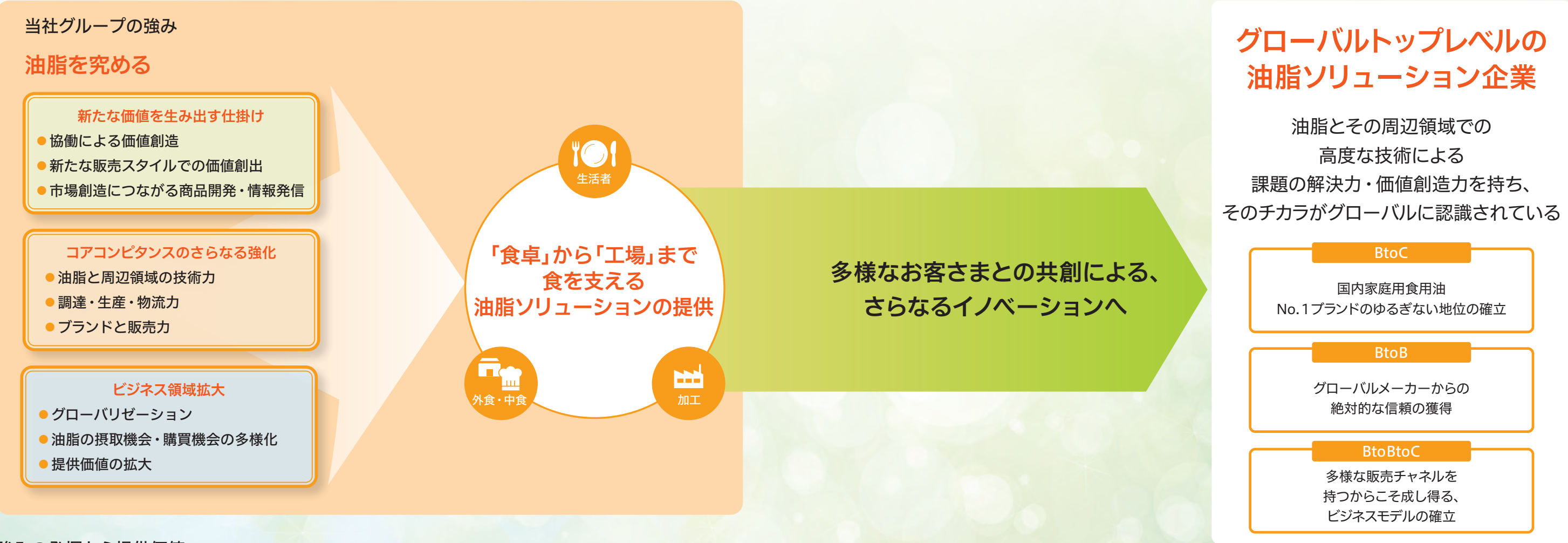


当社グループの強み
油脂を究める

日清オイリオグループの価値創造ストーリー

5 油脂のバリューチェーンにおける強みの発揮

当社グループは「油脂を究める」ことにより、生活者の食卓から、外食・中食の厨房、そして加工食品メーカーの工場まで、多様なお客さまの食を支える油脂ソリューションを提供しています。多様なお客さまとの接点から得られた知見を他の共創のなかで展開することで、さらなるイノベーションを創発し、お客さまに対する課題解決力や価値創造力を高めていきます。このプロセスをグローバルに展開することで「グローバルトップレベルの油脂ソリューション企業」を実現していきます。



日清オイリオグループの価値創造ストーリー

6 重点領域（マテリアリティ）におけるCSV目標（主要KPI）

当社グループは、「すべての人の健康」「おいしさ、美のある豊かな生活」「地球環境」「食のバリューチェーンへの貢献」「信頼でつながるサプライチェーン」「人材マネジメント」の6つの重点領域における課題解決を通じた社会との共有価値を創造していきます。そして、6つの重点領域ごとのCSV目標を達成することで、“生きるエネルギー”をすべての人にお届けし、サステナビリティを実現していきます。

解決すべき社会課題と取り組み			Value Up +		ビジョン2030
重点領域	具体的取り組み	取り組み項目	2021年度実績（初年度時点）	2024年度目標	2030年度目標
すべての人の健康 人生100年時代を支える心身の健康に貢献	脂質栄養の知見を軸とした商品・サービスの提供	多様なライフステージにおいて健康とエネルギーを生むヘルスサイエンス商品の伸長率の向上（2019年度比）※1	112 %	150 %	200%
		脂質栄養の知見を活かした健康課題の改善につながる商品の開発※2	「日清MCTオイル」などの機能性表示食品を発売	フレイル予防やメタボ改善に関連するエビデンスの取得と商品上市（2022年度から累計20品以上）	パーソナルな健康課題の解決（体質の改善や体調のコントロール）に関連するエビデンスの取得と商品開発
		最適な脂質の摂取につながる健康情報についての提供人数拡大※3（2021年度からの累計）	808万人	累計 1.3億人	累計 4億人
おいしさ、美のある豊かな生活 「おいしさ」と「美」の追求を通じてより豊かな生活の実現に貢献	「おいしさ」と「美」をもたらす油脂を商品・サービスとして提供	食卓に「おいしさ」を提供し、豊かな生活に貢献するブランドへの磨き上げ	新たな風味油カテゴリー創出に向けた取り組みを推進	お客さまと共感できる価値を見現化した商品の上市・展開	企業ブランド認知率90 %
		食での「おいしさ」や「美」を追求する商品創出	「オイルで味つけ」という新しい使い方を浸透させる商品として「日清やみつきオイルアジアンパクチー」と「BOSCO シーズニングオイル3品」を上市	かけるだけで「料理をおいしくする」食用油の浸透による食卓の豊かさへの貢献（お客さまとのタッチポイントを広げ、味つけオイルの市場を育成）	食用油を基軸とした新たなカテゴリー創出による食の豊かさへのさらなる貢献
		美を実現する商品の伸長率の向上（2019年度比）※4	105 %	150 %	200 %
地球環境 地球環境を次世代に引き継ぐために未来を見据えて挑戦	植物が育ち健やかに暮らせる地球を未来に残す	Scope1,2におけるCO2排出量削減（2016年度比）※5	7.3 %削減	20 %削減	50 %削減
		Scope 3におけるCO2排出量削減（2020年度比：カテゴリー1,4から取組開始）	2019年度、2020年度実績を集計し、目標を設定	購入した製品・サービスおよび輸配送（上流）の排出量の70 %をカバーするサプライヤーから、2026年までに科学に基づく削減目標の設定と、そのコミットメントを得る	25 %削減
		プラスチック容器・包装の削減および資源循環の推進	・プラスチック問題の当社の対応の方向性について審議 ・堺工場において環境対応容器の充填ラインの投資を決定	ホームユース商品の環境対応素材導入率70 %（対象：食用油およびギフト）	・資源循環につながる容器・技術・サービスの開発や仕組みの実現 ・石油から新たに作られるプラスチック容器（ボトル・キャップ）の原単位削減：15%（2022年度比）
		植物資源、当社技術を活用した、環境にポジティブインパクトを与える商品・サービスの開発（2021年度からの累計）	・環境にポジティブインパクトを与える商品開発10件 ・潤滑油、インク、接着剤等、工業用途への新規アプローチ・提案を実施	累計 80件	環境にポジティブインパクトを与える商品・サービスが中核となり、成長を牽引
食のバリューチェーンへの貢献 お客さまと共に技術・商品・サービスを磨き、お客さまが創出する価値を高める	お客さまと共に技術・商品・サービスの磨き上げ	国内における食エネルギーの安定供給（国内の総エネルギーに占める割合）	7.5 %	6 %以上	6 %以上
		ユーザーサポート機能の発揮によるソリューション提供 グループのユーザーサポート件数増加率向上（2019年度比）	83 %	130 %	150 %
信頼でつながるサプライチェーン 誠実さを大切に、強く、しなやかなサプライチェーンを構築	川上から川下まで持続可能なサプライチェーンの構築に寄与	人権尊重を基盤とした事業活動の展開・深化		サプライチェーンに対する人権デュー・ディリジェンスの本格運用	サプライチェーンにおいて人権侵害を発生させない土壌や仕組みの構築
		農園までのトレーサビリティ比率向上	パーム油 68.5 % パーム核油 30.5 %	パーム油：トレーサビリティ比率100 %を実現・継続するための実効性ある取り組みの展開	パーム油100 %
		持続可能な大豆の調達推進	ブラジル大豆の実態調査やRTRS（責任ある大豆に関する円卓会議）への加盟検討など	安定供給を前提とした持続可能な大豆の調達	
		持続可能なカカオの調達推進	産地の実態や顧客ニーズの調査	安定供給を前提とした持続可能なカカオの調達	
		持続的かつ競争力ある物流体制の構築	輸送積載効率向上に向けたF-LINE共配函数比率拡大 トラックドライバー拘束時間削減（日清オイリオ単体の工場内）	20 % 平均60分	30 % 平均30分以内
		グループの理念・ビジョンへの共感		サプライチェーンに対する人権デュー・ディリジェンスの本格運用	
人材マネジメント 多様な人材の働きがいを高め、組織能力を向上しイノベーションを起こす	多様な人材の働きがい・組織力の向上	グループの理念・ビジョンへの共感	グループの経営理念・ビジョン2030への共感指数向上	グループ全体で、理念やビジョン、当社グループの企業価値に共感と誇りを持ち、主体的に行動している状態を目指す。（2024年度より調査のうえ、適切な目標値を設定する）	
		強固な人材力の構築	積極的な人材開発投資としての正社員一人あたり「年間教育研修費用」の維持・拡大	78千円以上	95千円以上
		多様な人材の活躍	仕事を通じて社員の「成長志向」と「成長実感」の拡大	社員が成長意欲を持ち、仕事を通じて成長を実感できている状態を目指す。（2024年度より調査のうえ、適切な目標値を設定する）	
			女性管理職比率向上※6	8 %	20 %
		イノベーションを生み出す組織風土への進化	「働きがい」を感じる社員の割合拡大	「働きがい」を持った社員が社内外で創発的なコミュニケーションや共創に取り組み、挑戦する組織風土が醸成されている状態を目指す。（2024年度より調査のうえ、適切な目標値を設定する）	
		【参考：単体】	エンゲージメント調査を実施、働きがいを感じる人の割合64.6 %	70 %	80 %

※1 MCTオイル、加工食品、健康オイル、サブリのオイル、ウェルネス食品等、生活習慣病やフレイル等の対策に貢献できる商品

※2 低栄養、過栄養、パーソナルな健康課題等の解決に貢献できる商品

※3 脂質の健康情報とは、低栄養・過栄養の改善、ボディメイクなどパーソナルな健康課題の解決に役立ち、かつ油脂の正しい理解や価値向上につながる情報発信を指す。

※4 化粧品原料（IQL,NOST含）、セッツ自社衛生管理事業

※5 報告書作成時における最新の排出係数を使用して算定

※6 翌年度4月1日を基準日とする。日清オイリオグループのみ